

男女共同参画から見る 「メディア・リテラシー」

第1弾

● メディア・リテラシーとは

メディア(新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、インターネットなど)が発信する情報などに、私たちは常に翻弄ほんろうされています。無数の情報が発信される中で、ついそれらの情報をうのみにしてはいませんか。

情報を受け取る私たちが、情報を主体的に収集・判断し、見えない部分まで含めて読み解く力が必要になってきています。併せて、読み解いた情報を自分自身の言葉で発信できる能力を身に付けることを「メディア・リテラシー」と呼んでいます。

男女共同参画情報コーナー

とらいあんぐる

～一人一人が幸せを実感できるまちへ～

【編集】＝「とらいあんぐる」編集員

【問合先】＝本庁企画政策部 コミュニティ課
男女共同参画グループ
☎(23)5111(内線 4612)

例えば、こんな経験はありませんか？

私たちは普段、無意識のうちに情報に流されてしまっています。



男女共同参画とメディア・リテラシー

次のクイズに
挑戦してみましょう！

下の絵のイメージは、「男性」「女性」「どちらでもない」のどれに当てはまるでしょうか。



皆さんは、どのように思われましたか。ビールを豪快に飲む男性やお茶の支度をする女性など、固定したイメージで考えませんでしたか。

「男性らしさ」「女性らしさ」というイメージを、私たちは今までの家庭・教育環境やさまざまな情報の中から認識しています。特に社会的影響力の大きいメディアから発信される情報には、固定的な性別イメージを強調する表現がよく普通に見受けられます。

例えば、伝えたい内容とは関係なく水着姿の女性が商品を持っているポスターは、性的な側面を強調していま

す。また、企業の社員や医師が男性ばかり登場するシーンなどは、旧来の固定的性別役割分業が潜在的に残っているといえます。私たちはこのような表現を「おかしい」と気付かないまま、無意識のうちに触れていることが多いのです。

一人一人の個性や生き方を大切にする男女共同参画社会の実現のためには、「まず全ての情報を疑ってみる」という意識が大切です。また、メディアはもちろん、家庭や学校などにおける情報発信にも配慮が必要です。